

# 『あいさつの距離』

◇最近、様々な場面で、今年度これまでの北中の変化について話をします。もちろん、良さ・素晴らしさについてです。

特に…ということでは話しているのが**あいさつの変化**です。中でも、昨年度との一番の違いは**音量**です。全校的に音量がアップし、**想いの伝わる気持ちのよいあいさつ**ができています。きっと、新年度になり、新たな自分づくりの一つとして、あいさつも意識している人がいるからでしょう。

中でもその**先導役**となっているのが**一年生**です。集団の中の一人一人、また例え一人での登校であっても音量が大きく、元気が伝わります。一年生の姿が全校にも波及している、と言っても過言ではありません。

更に驚かされたことは、表題とした『あいさつの距離』です。あいさつを交わす場面を想像してください。その時、相手との距離はどの程度離れているでしょうか。人それぞれにパーソナルスペース・間合いがあり、どれくらいの距離が適切かというもの、その人により、さらには相手によっても異なるのが当たり前とも言えます。

でも、世の中には、パーソナルスペースの対人距離も以下の四つに種類分けされているんです。

- ① 密接距離： ～四五cm(絶対に他人を入れたくない範囲)
- ② 個体距離： ～一二〇cm(日常会話の距離 相手の表情が読み取れる空間)
- ③ 社会距離： ～三五〇cm(会話をするための距離 会話なししていると、居心地が悪くなる)
- ④ 公衆距離： ～七〇〇cm(相手の顔の表情がわかる距離 **普通、あいさつが発生する距離を指す**)

七mまでの距離を公衆距離と呼び、あいさつが発生する距離という定義を検証するわけではありません。何メートルという正確な距離ではなく、**感覚的な距離**が**とても遠いのに、元気なあいさつが飛んでくる**んです。最初は誰にしているんだろうと思うほどでしたが、こちらにも元気になるあいさつです。

日の出が早くなり、日が差してくると、暑さを感じるようになってきました。衣替え移行期間となり、本日は白く涼しげな夏服もちらはら見られるようになってきました。そんな中、これからも、爽やかな挨拶が飛び交う北中であることを楽しみにします。